

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

外部評価の結果

講評	
全体を通して(特に良いと思われる点など)	『利用者も職員も元気の良い事!』がこのグループホームの売り。一般にLDKと云われる部屋に利用者9人と職員3人が入ると、ゆとりのある空間とは言えない。その中で「リハビリ体操」「食事前の口腔リハビリ体操」「歌の合唱」「調理の手伝い」「洗濯物の片付け、整理」「食卓やおしぼりの準備と片付け」「各居室に貼るカレンダー作り」「手作り作品の制作」等の生活プログラムが、1日の適切な時間を見計らって盛りたくさん組み込まれている。
	これらは全員に強制されているものでなく、参加も自由であるが、大半の人がその時間になれば集まってきて、一人ひとりの出来る能力の範囲で身体を動かしたり、皆んなでコミュニケーションを計っている。
	もう100歳に近い人から、まだ高齢者の中では比較的若い人までの年齢巾があり、認知症の度合や身体機能の差もある中で、これらの日常のプログラムを利用者の健康維持や能力維持の視点で、うまく生活リハビリをしていると感じた。
	『皆んなが居るココがええ!!』と言いながら、それぞれの人が自分の居場所と居心地をつくりあげている。『狭いながらも楽しい我が家』昔の心の通じ合った日本の良かった家族、楽しかった家庭を思い出すグループホームである。
特に改善の余地があると思われる点	次のような提案をした
	グループホームの「たより」を定期的に発行したり、日常生活の写真等で情報を家族に送り、家族もグループホームの一員であるという意識を持って貰い、利用者をもっと身近に感じられるようにして、利用者と家族とグループホームの一体感を深めたらどうでしょうか。
	グループホームの外回りのスペースがないので、利用者が外気に触れて生活する機会が非常に少ない。高齢者になれば、尚更、太陽や風に親しみを感じたり、外の社会に触れる事も必要と思うので、気候が良くなれば、色々な催しや行事、外出も計画して、家族と一緒に楽しめるようにして貰いたい。
	2階部分の使い方を再考して、利用者が楽しめる空間を設けられないだろうか。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	毎日の生活に、一人ひとりの残存している能力を生かして、家事や運動などの作業療法へ参加する機会を取り入れている。又、何もしないけれど、自室に居るよりはリビングルームに来て過ごす方が楽しいと言っている人もいる。皆んなが賑やかに生活している空気を感じて、自分なりの居心地を確保しているのだろう。		
	唯、これからは心身共に機能低下すると共に意欲低下も益々大きくなっていくので、生活意欲向上につながる「喜びのきっかけ」が欲しい。又、多忙や遠方の家族も多いと聞くが、利用者と家族のつながりを日常保てるような工夫をしていかなければならないと思う。		
	生活記録や介護記録などを記述ではなく、一覧表のような型で記録するような工夫もされている。このような省力化して且つ見易い記録方法を生かす方向で進めて貰いたい。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	病院とデイサービスと3つのグループホームが集中して、日常の高齢者ケアに努力している法人である。その中で最初に開設したグループホームで丸4年を経過している。この法人のグループホーム経営が起点となり、この経験が他のグループホームに生かされてきた。逆にこのグループホームの欠点も良く分かっているだろう。それを職員の情熱と努力でカバーしていることは十分に納得出来るし、負担費用も安価となっている		
	現時点でハード面の改善は中々難しいと思うが、可能な限り現在の建物の中で改善して、利用者の生活にゆとりを持たせて頂く事と家族にグループホームをもっと関心を持って貰い、利用者が安心感を持って貰えるよう、グループホームから家族に生活の情報を提供する“たより”のようなものを法人全体として考えてみては如何でしょうか。		

事業所名

グループホーム のぞみ

日付 平成17年3月31日

特定非営利活動法人

評価機関名

高齢者と痴呆の人のケアを大切にす会

LIFE SUPPORT推進グループ

評価調査員 老人保健施設介護及び介護支援専門員
経験8年

評価調査員 看護、訪問看護経験4年、福祉系短期大学
教職員 経験7年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	管理者は大規模施設での勤務経験から、「利用者一人ひとりを大切にしたりリズムで生活を支えてあげたい」と言う考えでグループホームのケアを選択した。利用者の機能低下をさせずに生き生きと暮らして貰いたいということを大切に、機能訓練を生活の中の随所に取り入れている。		
	又、グループホームの生活の中で、利用者の権利を具体的に明記して掲げており、利用者や家族にも伝えており、実際の生活に反映されている。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	利用者が皆んなで時を過ごすリビングルームはハード面から考えると常識として狭い。又、居室も2階に分かれている。決して便利とは言えないが、職員の日常の工夫と利用者に対する思いとケアが不便さをカバーしている。それは日常生活の中で職員は利用者の状態を把握出来るし、利用者の気持を感じることも出来る。利用者が不安を抱くと、何が不安なのか周りの状況を汲み取って、その雰囲気や溶け込んで貰えるようにしている配慮も感じられた。居室は簡易流し台とトイレが有り、居室での生活は便利である。		
	外回りの楽しめる場所がなく、外へ出れば自動車の往来する道路であり、帰宅願望のある人も居るので出入口は施錠している。外で楽しめる空間があり、利用者が自由に入出入り出来る事が望ましい。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		